

夕べになっても光がある

ゼカリヤ書 14 : 4 - 9



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年12月1日

降臨節第1主日

上野聖ヨハネ教会にて

「夕べになっても光がある」

今日の旧約聖書・ゼカリヤ書 14:7 の言葉です。

「夕べになっても光がある」

日が落ちて、あたりが暗くなり、空も、そして世界全体も暗くなっていく。それでもなお光がある。その光はけっして消えず、手もとを照らし、足もとを照らし、行く道を照らします。世界も、そしてわたしたちの人生も、もはや暗黒に支配されることはない。

「夕べになっても光がある」

ずっと以前、わたしはこの言葉に出会って、何と美しい言葉だろうかと印象に残った記憶があります。それが今日、降臨節第1主日の旧約日課に出て来ました。

遠い昔の預言者ゼカリヤは、彼が生きた悩みの時、暗黒の時代にあって、神さまの光を受けた。神さまから来る希望の光を感じてそれを書き留めた。彼は、後の人がその光と出会って、希望を持つようにと願って、この言葉を書き残してくれたのではないのでしょうか。

今日から降臨節に入りました。クリスマスの備えをする期節です。祭色は緑から紫に変わりました。紫は慎みの色、祈りの色、そして待望の色です。待望と言いました。光なる救い主イエス・キリストを待ち望むのです。ご自身光である方、わたし

たちを照らす光であるイエス・キリストを、新しくわたしたちのうちにお迎えしたいと願います。

ヨハネ福音書は、クリスマスの出来事を「光の到来」としてこう表現しました。

「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。」1:9

そこでその光についてのイメージを三つお話しして、クリスマスを迎える備えをしたいと願います。

第1に、その光、主イエスの光は清らかな光、聖なる光です。汚れた世界に汚れなき神の子が来てくださった。わたしたちがこの方を迎えるとき、この方の光によって清められていく。聖なる静けさに満ちた光の世界を味わうのがクリスマスです。

第2に、その光は温かい光です。神の子は人の子として、体温をもって来られました。温かい体です。人の心が冷たくなり、硬直してしまいました。けれどもそれは神さまが願われることではありません。この方を迎えるとき、わたしたちは顔をしかめてではなく、微笑んで迎えるのです。安らかに眠る赤ちゃんを見るとき、わたしたちの心は柔らかく、温かくなります。

第3に、その光は確かな力強い光です。神の子の降誕は人間

の想像ではありません。神さまがわたしたちとこの世界を救おうと決意して、断乎として実行された出来事です。いつときに花開いてやがて消えていくようなはかないものではありません。神の救いの確かな手は、この地上に、わたしたちに及んだ。降誕の主イエスから、わたしたちは確かな救いをいただくのです。

三つのイメージを申しました。クリスマスの光は、清らかな光、温かい光、そして確かな力強い光です。

「夕べになっても光がある」

かつて預言者ゼカリヤが語ったこの光は、実はその数百年後においでになったイエス・キリストを指し示していたと思えてきます。闇の中になお、希望の光を保っていてくださる方。希望の光である方は、夕べになっても、闇夜になっても、なおわたしたちのために輝きつづけてくださるのです。

このゼカリヤ書は、イエスさまの生涯においても大事なものでした。あの受難の前、最後の晩餐の後、イエスは弟子たちを連れてオリーブ山に行こうとされたとき、弟子たちにこう言われました。

「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散ってしまう』と書いてあるからだ。」 マタイ 26:31

「わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散ってしまう」
は、ゼカリヤ書 13 章 7 節の言葉です。

まもなくご自分が捕らえられて打たれ、羊の群れである弟子
たちが散ってしまうのを感じて、思わずこの言葉を口にされた
のでしょうか。けれどもまことの羊飼いであるイエスは、散って
しまった羊たちを再び集められるのです。

ひとたび来られた救い主は、やがて再び来られます。一度目
は世界の片隅に赤ちゃんの姿でそっと誕生された主イエスは、
今度はすべての人にあらわな仕方で、主権を持つ方として来ら
れます。そのことを今日の日課、ゼカリヤ書 14 章 4～9 節から
聞きましょう。「主は」から始まる三つの言葉がそれを示してい
ます。

「その日、主は御足(みあし)をもって／エルサレムの東にあ
る／オリーブ山の上に立たれる。」 14:4

オリーブ山から昇天されたイエスは、同じオリーブ山に来て
立たれる、というのですね。

「わが神なる主は、聖なる御使いたちと共に、あなたのもと
に来られる。」 14:5

再臨の主はただ全世界に来られるというのではなくて、「あな
たのもとに」、あなたを救うために来られる、とされています。

「主は地上をすべて治める王となられる。」14:9

主イエスは王として、主権者として来られる。人々を苦しめてきたこの世の悪しき力はすべて砕かれ、死も滅ぼされて、主イエスが救い主として、羊飼いとして、わたしたちと全世界を治められるのです。

「夕べになっても光がある」

ひとたび来られた主イエスの光が、わたしたちのために、闇の中にも輝いています。そしてふたたび来られる主イエスの光が、永遠にわたしたちと世界を包んでくださるでしょう。

祈ります。

主イエスさま、あなたは 2000 年前、救い主としておいでになりました。その恵みの光はわたしたちを照らしています。けれども主よ、今もわたしたちの世界は悩みと困難に満ちています。悪しき力によって多くの人々が苦しんでいます。再び来ると約束された主よ、すべての人を救うためにどうかおいでください。またわたしたち一人ひとりが困難や心配を抱えています。遠い先ではなく、今、わたしたち一人ひとりのところに来て、あなたの光でわたしたちを包んで、力と希望をお与えください。アーメン